



## 嵯峨天皇さまと当宮例祭

本年は新型コロナウイルスの感染防止の為、今月十五日の当宮の例祭は神職のみの神事で、一般のご参列もお控え頂く異例の形での奉仕となり、大変静かな例祭となりそうです。

この夏のお祭りについて、例祭と書いていたり、夏祭と書いていたりしますが、これらは本来それぞれ別の意味があり、例祭はその神社にとって最もゆかりの深い日の祭礼を指し、夏祭はただ単に夏に行われる祭礼を指します。ですので、例祭が春や秋に行われるところも多くあります。当宮の場合は、たまたま例祭日が夏なので、夏祭とも書かれますが、例祭と呼ぶのが正しい呼称です。

その当宮例祭の執り行われる七月十五日は、当宮の主祭神であられます、第五十二代 嵯峨天皇さまが崩御(おなくなりなされた日)に当たります。

嵯峨天皇さまは、日本文化の祖神ともいえるお方で、現代に伝わる皇室の儀礼や桜の花見、お茶、華道などの「日本らしさ」のほぼ原型を形作られた方といっても過言ではなく、平安時代が長らく平穏な時代であったのは嵯峨天皇さまのお陰といっても良いほど大きな影響を与えられました。

そんな嵯峨天皇さまが遺言として残された言葉があり、「人の死は自然の理であり、気は天に、肉体は地に帰るだけである。あれこれと飾り立てて葬儀するのは本義ではない。私が死んだら即日埋葬し、追慕も極力控えるように。漢の孝文、魏の文帝のように薄葬が望ましい。出来るだけ慎ましく送ってほしい(抜粹)」と遺詔したと『続日本後紀』に記されています。そうした遺詔を思い出すと、嵯峨天皇さまの忌日でもある七月十五日は、静かに嵯峨天皇さまの御事績に思いを馳せる事こそ大切なものかもしれません。

しかし、崩御後、その御事績の大きさから当宮の大神様とされた歴史を鑑みますと、やはり当宮の例祭は、ご参列者皆様が大神さまへの感謝の誠を捧げる大切な機会でもあり、本年のようにご参列者も無く、ただただ静かに執り行われるのは神職としましては申し訳ない思いでもあります。夏の祭礼は疫病除けの意味もあります。一日も早く新型コロナウイルスが終息するよう、その祈りも込めて、本年は慎ましやかにご奉仕申し上げます。



## 祭礼催事中止について

新型コロナウイルスの感染防止の観点から、密集状態を避ける為、左記祭礼につきましては、神職による神事のみとし、一般のご参列はご遠慮頂く形で斎行致します。

- ・ 七月六日〜七日 七夕祭(御旅社)
- ・ 七月十五日 例祭(御本社)
- ・ 七月廿四日 遣梅式(神事も中止)

何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。



## 御旅社の社務再開

新型コロナウイルスと、神職の体調不良の為、四月から休止しておりましたが、茶屋町の御旅社の社務ですが、今月四日から基本土日午後一時〜五時でお受付再開いたします。大変ご迷惑をお掛け致しました。しかし、まだ神職療養中ですので、急遽変更の場合もございます事ご容赦下さいませ。



## 今月の暦

【祭礼】 七夕祭(六〜七日)：御旅社 本年は神事のみ  
例祭(十五日)：御本社 当宮で最も大切な祭 神事のみ

【節気】 小暑(七日)：梅雨明け頃。セミが鳴き始める  
大暑(廿二日)：暑さ厳しき頃。暑中見舞いの時期

【雑節】 半夏生(一日)：田植え納め。縁起の良い夕コを食べる  
夏の土用(十九日〜八月六日)：土掘りは縁起悪い時期  
土用の丑(廿一日)：滋養の為にウナギ等を食べる  
山開き海開き(七月上旬)：安全を考慮しての時期

【大安】 七月三日、九日、十五日、廿六日

【祝日】 海の日(廿三日)、スポーツの日(廿四日)

【朔望】 満月(五日)、下弦(十三日)、朔月(廿一日)、上弦(廿七日)

【旬】 【野菜】 枝豆、インゲン豆、キュウリ、ピーマン、生姜  
【果物】 スイカ、パイナップル、メロン、瓜  
【魚介類】 アナゴ、アユ、ウナギ(養殖)、ハモ、ウニ、タコ  
【その他】 七夕の素麺、白蒸(まつり飯)、百合の花が見頃

### 雑感

梅雨時になれば落ち着くとみられていた新型コロナウイルスが、六月末の段階でも、東京を中心に感染者数が増えており、第二波の到来が危惧されています。しかし、コロナ禍で大打撃を受けた方々をみると、安易に商業の自粛を言い難い雰囲気も感じられます。こうした時こそ、支え合いが大切になります。一日ひとつでも良いので、近い方などに笑顔で温かい言葉を掛けましょう。

## 網敷天神社 SNS、地図サイト

